

# 札幌市議団ニュース

2011年6月29日 No.39

日本共産党市議団事務局発行  
電話 211-3221 FAX218-5124

## 議案審査特別委員会・論戦特集 ③

### <小形議員> 中高一貫校計画／受験競争の低年齢化につながる ない仕組みを

中高一貫校開校へ向けた基本計画策定の整備費が計上されました。今回の“公立”での開校に、期待と懸念の声が寄せられています。札幌でも、すでに実施されている“私立”の中高一貫校では、結果として受験競争の低年齢化を招いています。

小形かおり議員はこの問題を取り上げ、まず「入学選抜にあつたては、受験競争の低年齢化を招かないような方法を検討すべきと考えるがどうか。また、適性検査などと称して塾に通っていなければわからないような難問を解かせ、小学6年以上の学力を求めている学校もあるが、どのような仕組みを作ろうと考えているのか」とたどしました。

金山正彦学校教育部長は「入学者の決定には、法令に従い学力検査は行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選など複数の方法を組み合わせて実施する。適性検査については、受験競争の低年齢化につながることはないように、単に知識の多寡に左右される検査でなく、発想力、物の見方・考え方をみるものにする。今後、十分に時間をかけ、調査研究を進める」と明言しました。

小形かおり議員はさらに「中高一貫校を導入した私学では、エリート大学に入学させる<進学実績>を作るため、本来の勉強は高校2年で終わり、高校3年の授業は大学入試対策一辺倒になっているところもある。今回の中高一貫校が大学入試対策一辺倒に片寄った教育であつてはならないと思うが、どうか」と質問。

金山正彦学校教育部長は「6年間通じて、子どもたちの課題解決能力や表現力を伸ばすような教育課程を考えている。なお、教育内容については現在検討を進めているので、まとめ次第発表する」と答弁しました

小形かおり議員は最後に「今後の検討にあつたては、すべての子どもたちを視野に入れながら、30人学級の早期実現や期限付き教員をなくす問題などを正面にすえ、豊かな教育を進めていくこと」を強く求めました。  
(6/27)

### <伊藤議員> 保育所整備／待機も超過も同時解消する大きな目標(3年間で5000人)をもって

わが党は代表質問で、「保育所整備について、2013年度までに5000名の整備を行い、待機児童の解消を」と求めたのに対し、生島副市長は「超過入所及び待機児童が生じている現状を重く受け止めて…待機児童の解消をめざす」と答弁しています。

伊藤りち子議員はこの問題を取り上げ、「超過入所の解消をめざすのであれば、本年1月の超過入所と待機

児童の合計は4940人。5000人規模で保育所を増やさなくてはならないと思うがどうか」とただしました。

堂前晃子育て支援部長は「いずれも重要な課題だと認識している。これまでも最大の努力をしているところだが、今後は『第3次新まちづくり計画』のなかで、待機児童と超過入所を合わせて改善、解消をめざしていく」と答弁しました。

つぎに伊藤りち子議員が「①産休明けで仕事に復帰しようとしたが空きがなく復帰できなかった②夫婦で働かなければ家族3人生活できない状況だが子どもを預けられないなど、深刻な相談が事務所にも寄せられている。働きたくても預ける保育所がないという深刻な実態についてどう認識しているか」と質問しましたが、堂前晃子育て支援部長の答弁は「区の窓口で受け付け、実態把握に努め、可能なかぎり対応している」とどまりました。

伊藤りち子議員は「超過入所も90人定員に対し112人のところも。現場の保育士は子どもたちの健やかな成長と保育の質を向上させようと頑張っているが、疲労も限界に。また東日本では一人も死亡させることなく保育士は命がけで子供たちを守ったことが注目されている。この教訓も受け止め、保育の質を低下させず、災害が起こったときには迅速に避難できる保育体制の最低限の基準を確保するなど、いつまでに超過入所を解消していくのか」と質問しました。

堂前晃子育て支援部長は「保護者が希望しながら入所できない児童のいることを重く受け止めている。昨年も今年も当初計画を上回る増員をはかっている。保育士の処遇については独自の補助制度にとどまらず、保育所整備と合わせて国に逐次要望していく」と答弁しました。

伊藤りち子議員は最後に「待機児童が増えているのが現実だ。待機も超過も同時に解消する大きな目標（3年5000人）をもって、第3次計画を進めていただきたい」と強く求めました。（6/27）